

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 元年 8 月 23 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204409		
法人名	有限会社 ピースフル		
事業所名	グループホーム すまいる		
所在地	広島市安佐南区相田5丁目5-9-8 (電話) 082-872-3014		
自己評価作成日	令和元年6月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3470204409-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東4丁目11番13号
訪問調査日	令和 元年 8 月 23 日 (金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

開設以来、会社理念の「安心・安全・楽しむ」を元にご利用者の皆様と楽しく生活しております。事業所理念として認知症等により生活支援が必要となられた方々が、「大人として」生活できるようにを目標とし、派手さはありませんが「普通」を目指し日々取り組んでいます。そのため、レクレーションや大きな行事に重点は置かず、日々の買い物、調理、外出、趣味等お一人お一人の生活歴の中から興味のある事を探し取り組み、自然と身体が動く事を目標にしております。起きたい時に起き、寝たい時に眠り、出たい時に出る、食べたい時に食べる、遊びたい時に遊ぶ等普通の欲求が実現できるよう職員も一緒に楽しみながら毎日を送っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームすまいるは、アストラムライン安東駅より徒歩5分の所に位置している。事業所周辺は住宅街で、自然もいくらか残っていて静寂を保っている。町内会に加入しており、地元の神社に初詣に行ったり、豆まきに参加している。地域サロン・公民館祭り・盆踊りや敬老会・町民運動会に参加したり、秋祭りには神輿がホームを訪れ楽しまれている。職員は利用者の思いや意向の把握に努めており、日々のケアの中で意識的に声をかけたり、話のきっかけ作りをする等、話しかけの工夫をしている。接遇研修や職員間の話し合い等を実施し、職員は落ち着いた声で丁寧な言葉使いで利用者や家族に接し、話を良く聞き、笑顔を絶やさず挨拶や言葉かけをしている。利用者が有する能力に応じて、可能な限り自立した日常生活を営む事が出来るような支援を心掛けている。リーダー会議・ユニット会議での職員同士の意見交換等を通じても研鑽を重ね、サービスの向上に努めている。

グループホーム すまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	安心・安全・楽しむを事業所理念とし、小規模の特性を活かし、個々の時間を自由に、自分のリズムで過ごせるよう取り組んでいます。	会社理念の「安心・安全・楽しむ」を事務所入り口に掲示し、利用者一人一人が暮らしてきた経歴を重視し、利用者の自立した生活を支援する事を柱とした理念を掲げ、日々のケアで直面する課題に理念を照らして話し合う習慣を心掛けている。会議時にも理念に触れ、職員が共有して実践に繋げる様にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域のお手伝い等できるよう心がけると同時に食材や日々の買い物等地域のお店に利用者の方と一緒に出向いたり、地域のサロン、公民館行事等にも積極的に参加しております。	町内会に加入しており、地元の神社に初詣に行ったり、豆まきに参加している。地域サロン・公民館祭り・盆踊りや敬老会・町民運動会に参加したり、秋祭りには神輿がホームを訪れ楽しまれている。利用者は近隣の散歩の時に地域の人と挨拶を交わす等、日常的に交流している。中学校の職場体験の受け入れをしていて、学生が紙芝居をしたり会話をし、笑顔一杯で触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターの協力もあり、認知症サポーター要請講座を地域や小中学校などで開催し啓発に努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	自治会の協力が大きく、民生委員の方も含め、積極的に意見を頂き、施設行事等にも参加をしていただいています。地域行事もよく声をかけていただいております。推進会議会議内でも活発な意見交換ができております。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、地域包括支援センター職員・自治会役員・民生委員・消防署・管理者・相談員・利用者・他事業所職員が参加し、利用状況・交流・行事等の実施状況・苦情の状況・事故の状況・その他報告すべき事項等の結果報告を話し合っている。会議で出された意見や要望は、職員会議等で検討して、サービス向上に活かしている。	運営推進会議の参加メンバーが偏っているので、町内会長・中学校の先生・スーパーの店長・警察官・幼稚園の先生等の多職種の今後の参加を期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認知症サポーターステップアップ研修、サポーター要請研修の開催を通し市町担当者との協力関係ができてきております。	市担当者とは、市主催の会議・研修(認知症サポーターステップアップ研修、サポーター要請研修)、介護保険の申請や更新等で出向いた時や電話等で相談して助言を得たり、情報交換をして協力関係を築いている。地域包括支援センター職員の運営推進会議参加時に、ホームの状況報告を行うと共に、情報交換や意見交換をして、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議や、日々の申し送り、外部研修を通し職員一人一人が身体拘束について正しく理解できるよう努めています。また、行動障害等が見られる場合もカンファレンス等で対応方法を職員で話し合っております。施錠は夜間以外は行わず、開放的な環境を提供できるよう努めています。	身体拘束マニュアルを基に内部研修を行い、拘束のない生活支援が出来るよう努力している。玄関の施錠(夜間以外)はせず、外出したい利用者とは職員と一緒に外出している。スピーチロックについては、日常業務の中で職員同士で確認し合い、気になる所は管理者が指導したり、職員同士で注意し合っている。3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催して検討し、職員は身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様、職員会議、日々の申し送り、外部研修を通し、虐待防止に取り組んでいます。同時に職員のストレス等たまっていないかを日頃から管理者が注意しております。		

グループホーム すまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	外部研修を中心に理解の場を増やしておりますが、職員全員への周知は出来ておらず、現在も研修等参加を促しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に必ず話し合いの場を設け、メリット、デメリットをしっかり説明させていただいております。入居後も極力、ご家族との会話の場を持つことで、不安や誤解等に繋がらない様努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱を設置し、意見等記載できる場を設け、また、日々の利勝者、家族の方との意見交換の中で、情報を把握し、職員会議等で話し合うようにしています。	家族の来所時、職員は利用者の近況を伝え、要望等を聞いている。グループホーム入り口に、意見箱を設置している。又、家族には毎月、利用者の様子を手紙と写真で報告すると共に、家族に意見等をメモしてもらい、会議で検討し運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月管理職だけではあるが各部署より集まり、意見交換の場を設け、各職員等の意見を報告しています。	管理者が職員と面談し、意見や提案があったら、その都度検討し業務改善を行っている。又、毎日朝夕の申し送り時や業務内で声かけし、意見や提案等がないか確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員の実績等を代表者に報告し、不定期ではあるが昇給等行われています。代表者は基本的には現場管理者に概ね任せており、制限が少なく、働きやすい環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	不定期ではあるが、代表者が現場を訪れ、各職員の力量等の把握に努めている。研修等は管理者の判断で定期的に組み込んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	多くはありませんが、管理職に対しては他事業所との交流機会を設けてもらっています。現場を含めていくと、管理者が中心となり、他グループホームとの人事交流や、合同研修会を開催しております。		

グループホーム すまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に必ず、ご利用者様との面談の場を設けています。その際に不安、要望等をお聞きし、当事業所で、出来る事を提案させていただきながら、一緒に解決策を探すことで関係作りの一歩とさせて頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に必ず、面談の場を設けています。ご家族の抱えている不安等をしっかり判断、把握に努め不安の、要望等ご家族の思いの解決、軽減に努め、安心して利用していただけるよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	外出支援や、中での活動を含めその時々でのご要望等に対応できるよう心がけています。訪問マッサージ等其他サービスも必要に応じ、積極的に活用しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人の大人として接することを大切に、出来ない事よりも出来る事を重視し、生活歴や性格から支援方法をけんとうしています。職員の時間を見つけ会話や、外出等を一緒に楽しんでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に対し、何かを強要することではなく、毎月、写真と文章で現状の報告をし、面会時等積極的に会話をし、情報の共有を行っています。同時にご本人、ご家族の家族関係の再構築の場となるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日勤1人をフリーで配置し、いつでも外出等出かけられるよう準備をし、生活歴を元に、趣味等お好きな場所、事柄が行えるよう支援しています。	職員は利用者の生活歴・病歴を入所時のアセスメントや家族から聞き、又、馴染みの人や場所を把握し、関係継続に配慮している。馴染みの店での買い物や自宅周辺のドライブ、家族の協力を得ての墓参り、葬儀や法事への参加、外泊、一時帰宅、外出、外食等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コミュニケーションが苦手な方は職員が間に入り、関係性を築いたり、仲の良い方達はお部屋でお話をされたりしています。また、関係が悪化した際は席を変える等配慮します。狭い空間で、長く過ごされる場の為なので、特に注意をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事業所としてはいつでもお越しくださいと、お伝えはしますが、多くの方は退去後関係性が切れてしまうことが多いです。退居の理由によりますが、フォローすることもあります。		

グループホーム すまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生花、お漬物作り等、個々に合わせ取り組んでいます、また、ビールが飲みたいが、疾患的に困難なので、ご本人と相談し、ノンアルコールビールを飲まれている等。本人の意向を最優先とし、ご家族、医療面での問題がなければ可能な限り実施を行っています。	日常会話の中から、利用者の意向や要望の把握に努めている。又、意思表示出来ない利用者からは、表情やしぐさから意向をくみ取り、職員全員で検討し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	仕事にきていると思われる利用者様には職場として、家と思っておられる方には言えとして等、生活歴、生活習慣を元に、環境や起床、睡眠、食事時間等、ご本人の生活リズムを作っていきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	フロアで皆様と過ごす方、目的があり、居室で過ごす方等、強制的に1つの場を集めるのではなく、個々のリズムで、落ち着く場所で過ごしていただいています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者が1人で計画作成を行うのではなく、定期的にカンファレンスを行い、意見交換を行う中で、介護計画の作成をしています。その際、問題点ばかりに意見が偏らないよう心がけています。	利用者の日常の様子を記入した個人記録表を基に、主治医・看護師・職員の意見を参考にして、サービス担当者会議で集約し、現状に即した介護計画を作成している。6ヶ月毎にカンファレンス・モニタリングを実施して、計画の見直しをしている他、状態の変化や要望に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日記録を作成する中での気づき等が出てきた場合毎日の申し送りや、職員会議の中で話し合い、共有、実践できるよう心がけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その都度変化するニーズに柔軟に対応できるよう心がけています。施設内だけに囚われず、ニーズに応じ、室内外問わず、柔軟に対応させて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	生活支援を主と捉え、支援させて頂いています。「喜んでやりましょう」「喜んで行きましょう」等ご本人様が自然と体が動く事柄を生活歴や、日々の関わりの中より発見し、近隣のお店、野球観戦、居酒屋等、全てを社会資源と捉え取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前にかかりつけ病院受診の継続か、往診、協力医の受診かを選んでもいただけます。いつでも変更可能で、その都度ご本人、家族、医療職等相談をし、納得いく医療を受けられるよう心がけています。	本人や家族の希望により協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。他科(整形外科・耳鼻科・皮膚科等)の受診は事業所が支援している。歯科は、週2回訪問診療がある。受診結果は介護記録や申し送りノートに記載して共有し、家族には電話で伝えている。夜間や緊急時には、協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホーム すまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと連携し、医療ノートを作り、受診状況、身体状況等記録し、訪問時に報告を行うか、都度連絡をし助言、意見を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は定期的にお見舞いに伺い現状把握に努めています。また、日頃より協力医の先生には電話等で相談することが多く、良好な関係が築けていると思っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	当グループホームで見取りの実績があり、一定の状態になられた際にご本人、ご家族との面談を行い意思確認を行い、その後関係機関と相談し、ご本人、ご家族の意向に沿えるよう取り組んでいます。	契約時に本人や家族に「重度化及び看取り介護に関する指針」に基づいて、事業所で出来る対応について説明している。実際に重度化した場合には、かかりつけ医・看護師・家族、管理者と相談し、希望に添えるようにしている。職員は管理者と共に情報を共有しながら、チームで看取りのケア支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年2回、消防訓練を行う中に取り入れ訓練を行っています。が、職員の入れ替わり等あり、全員の周知には不安が残ります。引き続き、訓練等で周知できるよう努力します。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防訓練を行う中に取り入れ訓練を行っています。が、緊急時同様、周知には不安が残ります。地域との連携は良好で、連絡簿の作成、避難場所の確認等話し合いを行っています。また、地域の防災訓練にも参加させて頂いています。	年2回消防訓練は行われていて、その内の1回は消防署の指導の下で、昼・夜間想定で消火訓練・通報訓練等が行なわれている。運営推進会議で話し合っ、事業所の緊急連絡網に民生委員の加入を得ており、地域との連絡は取れる。土砂災害についても、検討・研修して避難場所の確認を行い災害に備えている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	原則、敬語を使うことで、大人として接する事をどなたに対しても心に置き支援させて頂いています。また、日々の声かけが、支持的、指導的な表現にならないよう指導を行っています。	職員は利用者の人格尊重と親しさとのバランスを考え、呼び方や言葉かけを工夫している。管理者は言葉や対応で気がついた時は、本人に直接注意している。職員は事業所内での研修や会議の中で、接遇や人格の尊重、プライバシーについての知識や対応を確認し、情報を共有しながら支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	～どうしますか？～というように言葉の最後に？をつけることで、極力ご本人に選択していただけるよう気をつけています。一方的に話を決めず、言いやすい環境づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起きたいときに起き、寝たい時に寝る、食べたい時に食べ、出たいときにでる。を目標に振り返りを行いながら支援させて頂いています。食事の開始時間、活動頻度、入浴回数等、個人個人様に行われています。		

グループホーム すまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	介助しやすい服ばかりを優先するのではなく、ご本人に着替える際は服を選んでいただいています。また、服を買う際は一緒に買いに行き、好きな絵柄等を選んでいただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の位置づけはとても重要で、基本的には皆さん同じ献立をお出ししておりますが、麺は苦手等対応できる範囲で別メニューやパン食とご飯等選択できるよう取り組んでいます。献立もご利用者様の意見を聞きながら行っています。	食事は3食とも事業所で利用者と一緒に作っている。利用者の状態に合わせて、きざみ食、ミキサー食、とろみ食、おかゆ等形態を工夫して提供している。利用者は、味付け、盛り付け、テーブル拭き、下膳、お盆拭き、食器洗い等、一人ひとりの出来る事を職員と一緒にしている。又、時にはお好み焼きや寿司の出前を取り、楽しんでいる。誕生日には、個人の好きなメニューを聞き対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々嗜好の把握に努め、ご本人の希望される食物を献立に取り入れています。また、飲み物を複数用意し、飲みやすい物をお出ししています。栄養士の配置がないため、バランスや、カロリーに関する課題は残っております。毎日晩酌される方もおられます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアの実施と、必要に応じ歯科往診にて、口腔内の清潔に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	少人数制のメリットを活かし、個々の排泄パターンを把握し、個別に誘導等支援を行っています。	排泄チェック表を使用して、利用者のパターンを把握して、トイレに誘導している。夜間はポータブルトイレを利用したり、小まめな声掛けを行う等、その人の残存能力を活かし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	必要に応じ医療機関に相談をしながら薬等の使用も検討しますが、日々の運動や、食べ物を工夫することで便秘の解消に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は毎日午後より実施しております。好きな方は毎日入っておられます。身体状況によりますが夜間よくも実施しております。	利用者の希望があれば体調を考慮して、毎日、又は夜間入浴も対応している。基本は週3回で、シャワー浴や足浴、清拭等実施している。入浴を楽しむ為に、入浴剤(ゆず・菖蒲)を使用している。入浴をたくない利用者には、時間の変更や職員との交代、言葉かけに工夫して、入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	起床、消灯時間を設けず個々のリズムで寝起きできるよう取り組んでいます。日中も年齢や、状況に応じ支援し、強制的に起きていただくような支援は行わないようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方が変わったり、体調変化が出た際等、その都度主治医や、訪問看護、薬剤師と連絡をとり、状況把握に努めています。		

グループホーム すまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎晩晩酌される方、野球観戦、玄関の生花創作、調理、花の水やり等、個々の趣味、興味のある事柄を中心に計画し、気分転換に繋がるよう努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日の勤務の中にフリーの職員を配置し、出たいときに出る、やりたいときにやる等、ご本人の今～したいという思いに応えられるよう心がけています。近隣のお店等だけでなく、お墓参りや、美術館、映画館、植木市等個人の関心のある場所へ積極的に出かけております。	利用者の体調を考慮しながら、外出の支援をしている。日頃は近くへ散歩に出掛けたりもしているが、坂道が多い為、危険な場合があり散歩を控えている。利用者の希望により、職員を配置し、買い物、生花、映画館、お寺、百貨店の展覧会等に積極的に出かけ楽しませている。又、食事処(みほり峠・酔心)に食事に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いという形でお金を預かり、個人の買い物や、食材の買い物時に生活風景を実感していただく為に、可能な方には支払いまで行っていただくこともあります。また、ご家族の同意のもと、小額ですが自己管理されている方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	近年、携帯電話を持ち込まれる方も増えましたが、ご本人から要望がありましたら、ご家族に連絡し、精神的な安心につながるよう努めています。また、お盆や、お正月、荷物が届いた際等、定期的にお手紙を書いていただく事もあります。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的には職員が主となり、高齢者の方にあわせた環境整備を行っていますが、ご利用者、ご家族より意見を頂いた場合は変更できるよう積極的に取り組んでいます。	リビングは明るく、テーブルや椅子、テレビが配置しており、利用者は、それぞれの居場所で思い思いに過ごしている。壁面には、利用者と職員でつくった季節の作品を飾ったり、玄関に季節の花を生けたり等で季節感を採り入れている。事業所で3食とも食事作りをしているので、対面キッチンからは、調理の音や匂いがして、生活感がある。温度や湿度、換気に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一緒に買い物に出かけたり、お部屋で会話をされ過ごされる方もおられます。人付き合いが苦手な方は、ご本人のストレスにならない範囲で職員が介入し、関係構築に動いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	極力、新品ではなく、使っていた馴染みの物を持ってきていただけるようお願いをしています。入居後もご本人、ご家族が中心となり工夫をされています。刃物以外は原則何を持ってこられてもかまいません。	居室には、ベッド・整理ダンス・テーブル・椅子・人形・仏壇・テレビ・時計・鏡・化粧品・衣類・ぬいぐるみ等、使い慣れた物や好みの物を持ち込んで、自分の作品や家族の写真を飾って、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	高齢者に合わせた構造になっておりますので、特別な工夫はないと思いますが、今後も含め柔軟にとらえ、ご意見等ありましたら、随時変更、工夫等していきたいと思っております。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム すまいる

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム すまいる

作成日 令和元年8月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に参加する人数が少なく、いろんな意見を聞く為にも参加への働きかけが必要	ご家族か他の職種の方に参加して頂くようにする。	運営推進会議への参加をお願いすると共に参加をしやすい環境を整える。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。